

## 大嶋和雄所員を送る

齋藤 義 則 (当研究所長)

大嶋和雄先生は、環境科学を専門分野として、主に沿岸水域の環境ミチゲーションの研究をなされ、多大な業績を上げられてきました。環境科学会、第四紀学会、応用地質学会、水圏生態研究会等に所属され、科学技術庁長官賞(1980)、工業技術院院長賞(1989)を受賞されております。

先生は、数多くの論文、著書がありますが、本研究所における総合研究に意欲的に参加され、「茨城のすがお—その未来展望」(1996、文眞堂)では「茨城の地質」を執筆され、研究所年報には学生との共同調査・研究の成果を7編(31号、34号、35号、36号)発表されています。

先生は優れた自然科学者であると同時に、グローバルかつローカルな問題意識を併せ持った文明史的な資質を持たれているのではないかと思います。その一端は「茨城の素顔」の座談会に表れています。また、先生が地球温暖化の問題を、「地球の歴史からみれば温暖化することは一概に悪いとは言えない」、「大企業の経営戦略の一環ではないか」といった主旨の問題提起をなされ、人間中心主義の考え方を相対化し、環境問題を政治・経済・社会の問題として認識する必要性を指摘されました。本研究所においては先生の大胆で包括的な環境問題に対する認識を引き継ぎ、地域社会における総合研究をさらに推進するよう努める所存であります。

退官後の先生のますますのご研究の進展とご健勝を祈念しつつ、先生が本研究所に残されたご研究を引き継いでまいりますこととお誓いし、送る言葉に代えさせていただきます。